

## 「縁について」

私は今年で30歳になります。元々は、浄土真宗本願寺派に所属する家に生まれたのですが、縁あって、大谷派のお寺で僧侶をさせていただいております。

僧侶になって5年になりますが、それまでは一般の会社で営業の仕事をしておりました。そこで縁があり、親戚のお寺で後を継がなくてはならなくなり、1年間仏法の勉強をして僧侶になりました。

縁というものは不思議なもので、その縁が自分にとって良い縁であれば「良縁」、悪い縁であれば「運が悪い、悪縁」と思ってしまいます。また、自分にとって悪い縁であれば目をつぶって見過ごしたり、無かったことにしようとするかもしれません。しかし、この縁というのは非常に大切に、縁のつながりがないと人は生きていけないと思います。

たとえ人間関係でギクシャクしても、悪い縁だと目を背けていては問題の解決にはなりません。悪い縁だと思っても、大切にし、向き合っていくことで、道は開けてくるのだと思います。お釈迦さまの四門出遊や、親鸞聖人の吉水での法然上人との出会い等、縁の大切さがうかがえると思います。

良い縁悪い縁と区分しましたが、それは人間が勝手に区分したもので、自分の計らいで決めたものです。全ての縁が仏様が導いてくださった大切な縁として向き合っていくことで、自分が今まで見えなかった道が開いてくるのだと思います。